

# 全員参加で中期事業計画を策定・実行 ～やらされることより、やりたいことを～

京都府中小企業技術センター 「頼りになる中技セン」実現チーム

企画連携課：古郷、門田、新池、竹中

基盤技術課：宮内、前田、渡部、

応用技術課：小山、東、余座、植村、中村、大藤、鴨井

## 推薦理由

### 【アピールポイント(組織力の発揮)】

《所属長：

中小企業技術センター 所長 小林章一》

組織力とは組織を構成する人財යි。自発的な経験が人を大きく成長させる源泉となります。全職員が、よりよい職場を作ろうと、自分事として職場改善に取り組む機運を作り、自発的に関わって、小さなことでも、できることから実行に移していってくれていることがすばらしいと思っています。

### 【プロセスの工夫、横展開が可能な点】

《アセッサー：産業労働総務課 梅原 和久》

- 策定することが目的化しがちな行政の計画について、メンバー全員の参画を目指して、できることから取り組んで行くという発想自体が新しく、画期的だと思います。

# 取組内容(1)

## ➤ 取組の分野 (該当に○、複数選択可)

創造的事業 ・ 府民サービス向上 ・ 業務効率化 ・ 職場環境改善

### ➤ 現状、課題

- 第2期中期事業計画(平成27~29年度)の策定に向けて、26年度から検討開始。
- 中堅・ベテラン職員の異動・退職により、若手技術職員が増加。府内中小企業への技術支援水準の維持が課題。
- また、事業増加による多忙感があることから、技術習得・蓄積軽視の風潮も見られる。

### ➤ 目指す姿、状態

- 中技センがコスト面の有利性だけではなく、「頼りになる」から使っていただけること
- 利用企業から、発展・変革の「きっかけは中技セン」と言ってもらえるような、価値ある技術支援を提供すること
- 目指すべき姿に向かって、職員自ら考え行動する組織風土ができていること

### ➤ 取組の対象、顧客、ターゲット

【お客様】 京都府内中小企業

: 企業の技術は日々向上、変化している

⇒【中技セン】 企業の変化に対応し、質の高い技術サービスを提供し続けること。

そのためには、人財と組織の成長が必要。

### ➤ チーム体制、ネットワーク

- 中期事業計画の策定・実行メンバーの公募に立候補した、中技セン職員。  
管理職を除く正規職員31名中、計画策定には12名、実行には14名が立候補。

# 取組内容(2)

## ➤ 取組内容とプロセス

### ＜着想(気づき)～企画立案、事業化まで＞

中期事業計画の策定(平成26年度)

#### ①中期事業計画の策定メンバー募集

- ・メンバーは公募により選出。強制なし。⇒12名
- ・所長:3方針のみ。あとは、若手が自分で考える。

#### ②中期事業計画策定プロセス

- ・青く語る。「やりがい」=お客様に喜んでいただくには?
- ・「語り合う」「話し合う」「認め合う」ことを重視。  
⇒一人1課題へ。12名で10WG立ち上げ。

### ＜実行、実践の内容とプロセス＞

中期事業計画の実行プロセス(平成27年度)

- ・実行WGメンバーの募集 :公募 14名。⇒ 10WGの運営。
- ・スタート :4月1日AM8:30より「朝一カンファレンス」開始。
- ・全員参加の促進 :意見募集、アンケート、情報提供
- ・「見える」活動 :職員+お客様
- ・アセッサー養成研修への参加 :対話の重要性とスキル

### 工夫したポイント

- ・若手が自発的に手を挙げることで、そして若手に裁量を与えることで、責任感が芽生え、自ら考えるプロセスが生じました。
- ・管理職には、若手職員の検討内容・プロセスに口出しせず、支援に徹して頂きました。口出したいた場面でも我慢して見守っていただき、若手の自発的活動に繋がりました。

### 工夫したポイント

- ・明確なスタートを築くこと。4月1日始業直後、「中期事業計画の開始です。朝一カンファレンスを始めましょう。」の言葉で、皆の心が切り替わりました。
- ・中期事業計画の紹介ポスターを、お客様の目に入る事務室入口横に掲示しています。

# 結果とふり返し

## ➤ 成果、目標達成状況

- 4/1開始「朝一カンファレンス」は、全9担当で毎日実施。  
⇒対話が促進。情報共有・相談。お客様への共同対応。  
不在時の対応向上。OJTによる技術伝承。
- 職場の雰囲気向上・活性化  
⇒若手が活躍できる／意見言いやすい／風通し良い
- 使っていたきたい ⇒ お客様目線の強化  
:マニュアルの整備、紹介動画、広報革新  
支援事例研究・紹介、利用事例集、事務手続き見直し

### 取組から学んだ点

- ・ やりやすいことから良いので、まず行動する。成果が出ることが次の可能性を生む。
- ・ お客様に喜んでいただくために「考えること」「工夫すること」に、やりがいを感じる。
- ・ WGを引っ張る人、支える人、頼まれたことを行う人。色々な形があって良いので、全員が参加し実行することが大切。

## ➤ 今後の展開

- 中期事業計画の第1年目 :2年目以降の継続・発展
- 皆が主役 — 全員が参加・貢献する
- 対話の強化 :10WG間の連携、全職員での対話
- 自ら考える力 :スタートしたばかり。もっと進化できる。
- 京都府内中小企業へ発信 ⇒「頼られる中技セン」へ

### さらに工夫したい点

- ・ 「自ら考える習慣」が身に付くためには、考える経験を積み重ね、また対話を通じて新しい考えを受け入れることが必要。
- ・ 職員だけでなく、中小企業の方々も巻き込んで、自ら考え行動する機会を作り続けたい。

自ら考え実行する + 仲間がいる + 喜ばれる = 「やりがい」